



(Photo: 福地和男)

Close-up Interview (6月号 表紙の顔)

大石 奈緒 NAO OISHI素手で新たなチャレンジ
新生大石で挑むプロ第2章

今年からリストタイの使用が禁止になって、その対応に苦労している女子プロは多いが、大石プロも、ボウリングを始めたころからリストタイに依存してきたひとり。新型コロナウイルス禍によるブレイク期間を利用して、新たなスタイルを模索している。

8年で2勝は及第点？

—昨シーズンでプロ8年目を終えました。振り返っていかがですか。

優勝回数2回というのを、皆さんが多いと感じられているか、少ないと感じられているかわからないですが、自分なりにいいプロ生活を送れていると思います。もちろんもっとと思う部分はありますが、環境にも恵まれてノビノビやらせてもらっていますし、大きなケガもなくられました。

—デビューの年にいきなりMKチャリティーカップで優勝して第1シードにも入り、周囲の期待がプレッシャーになることはなかったですか？

もちろん自分でももっと勝ちたい気持ちはありましたが、自分よりも上の人があるので、しょうがないですね(笑)。姫路麗さんのようにすごい人が身近にいて目標にできるのは、いい時代にボウリングができています。

—5年目に六甲クイーンズオープンで待望の2勝目を挙げました。

六甲はずっとラウンドロビンにも残れていなくて、苦手意識がありました。主人(菊池正義プロ・46期)に、会場に合ったボールのラインナップを考えてもらって、そのうちの1個がすごくよくて…。だからボールのおかげという印象が強いです。

—ボールは何個ぐらい持っているのですか。

そのころから増えました。会場に送れる個数は6個なら6個と決まっているので、それ以外に宿泊するホテルに6個送ったりしています。あのボールを

持ってくればよかった、と後悔するのが嫌なので、とりあえず持って行って練習で投げてみたいんです。

—トーナメントに向き合う姿勢が変わってきましたか？

そうですね、以前は前日練習の当日にバタバタ投げていたのを、1日前に入ってから準備をして、体調も整えているようにしています。最終日も、朝あわただしく荷物をまとめてチェックアウトしていましたが、もう一泊するなど、時間的に余裕を持てるようにしています。もちろん経費はかかるけど、こうしたらよかったなと思うようなことを、少しでも減らしたいと思っています。

念願の金枠ワッペンに

—昨シーズンは、ランキングは第1シードに次点の19位でしたが、永久A級ライセンスを取得しました。

2年前に2020年からリスタ



▲「素手でのボウリングはシロウト」と語るが、公式戦でどんな姿が見られるか…



▲プロ9年目に「早いですね。リーグではどちらかというとベテラン側です」

イが禁止になることが決定して、その2年後がちょうど資格を得られる条件(200G、200アベレージ以上、または第1シード権のいずれかを5年連続達成・獲得)の5年目だったので、ぎりぎりまでメカテクターを着けてプレーすることを決断しました。もし外してとれなかった場合、また一からなるし、悔いが残ると思ったので…。

—それくらい大石さんにとって永久A級ライセンスは大きなものだったのですか？

金枠ワッペンになるのがあこがれでした。本当は、それをひとつの区切りとして、今年は産休にあてることも考えていて、会社ともそういう話をしていました。

—新型コロナウイルス騒動で、いろんなことが計画どおりにはいなくなりました。所属の山形ファミリーボウルも休業していたのですか。

4月25日から休業して5月11日に再開しましたから、約2週間ですね。その間は近所を散歩するぐらいで、ほとんど家にいました。意外に私は引きこもれ

る方なので(笑)、あっという間に過ぎましたね。普段が毎週末荷造りをして県外に仕事で出かけて、という繰り返しだったせいか、この時間はのんびりしようと思えました。

—今シーズンは、女子の開幕戦WOMEN'S ALL-STARは、出場権がなくて(次々点)出られなかったのが、まだ1試合も出ていないのですか。

自分の開幕戦と思って準備していたKUWATA CUPは、ボールも東京に送って、翌日出発という時点で中止の連絡がありました。

素手でのスタイルを模索

—今年はリストタイが禁止になって初めてのシーズンです。大石さんにとっては大きなルール変更ですか？

—大事です(笑)。小学4年生でマイボールを作ったときに小さいリストタイを着けて以来、昨年までのメカテクターまで、ずっと着けていて、素手のボウリングはまったく未経験でした。(寺下)智香ちゃんも去年はずっと着けて投げていたけど、あるとき練習でちょっと外して投げてみたことがあって、そのときはお互いにひどくて「うちらヤバイね」(笑)って言うたけど、智香ちゃんは2月のWOMEN'S ALL-STARでは早速結果(5位)を出していて、さすがだなと思いました。

—練習での手応えはいかがですか。

スピードは落ちていないけど、やっぱり回転数が減って、ヘロヘロヘロって感じのボールになっています(笑)。もうちょっと転がってほしい、もうちょっと曲がってほしいと思いますね。とりあえずは昨年までぐらいの回転数を目標にしています。

—どんな練習をしているのですか？

ボールの下に手が入る感覚を身につけたくて、家で軽いボールを使ってローダウンのような練習もしていました。また手遅れのタイミングにしようと、ゼロ歩助走からだんだん歩数を増やすような練習もしていましたが、歩数が増えると元のタイミングに戻ってしまって、今はよかったといってもらえるのは、10回に1回ぐらいです。一人で練習をしていても、自分ではなかなかそれでいいのかが判断できないので、できるだけ主人に見てもらおうようにしています。

—緊急事態宣言が全国的に解除されて、プロボウリングもシーズン再開の希望が見えてきました。

目指すスタイルにはまだほど遠いので、正直不安の方が大きいです。ただ、実際の試合のなかでしかわからない部分もあると思うので、早く再開してほしいですね。3勝目は高い壁だと思うけど、例え時間がかかっても、素手でも優勝できたといえるようにしたいです。

(取材協力: 山形ファミリーボウル)



おおいし・なお/1986年9月22日山形県生まれ。160cm。右投げ。2012年プロ入り(45期/ライセンスNo.487)。通算2勝。2019ポイントランキング19位。所属:(株)マルキ 山形ファミリーボウル/飯田通商(株)